

追悼 名誉会員 *Alksandr Mikhailovich* SAMARIM

本会名誉会員 A. M. SAMARIM (USSR) は、昭和 45 年 5 月 20 日逝去されました。
ここに同君の冥福を祈り、つつしんで哀悼の意を表します。



経 歴

1902 年 8 月 13 日ニジェ・ロッキー県サコナ村の一農村に生れた氏は、ニジェゴロド国立大学予備校を経て、1930 年にモスクワ鉱山高等専門学校を終了、鋼・合金鉄電気冶金専門冶金技師の名称を得た。

最初の研究は合金鉄製造技術の開発と国産化に関したもので、1930～1932年にはチェリヤビンスクのソ連最初の合金鉄工場での研究の指導に当たった。

研究成果は“合金鉄”(1934)、“電気冶金・鋼の製造”(1943)、“溶鋼脱酸の物理・化学的基礎”(1958)および“溶鋼の真空処理”(1960)などのなかに一部が記述されている。また非金属介在物の低い鋼の製造を保証する鋼および合金鉄の脱酸方式や、溶鋼の真空処理法を提案し、また鉄鉱石からするバナジウム抽出工程の研究を完了した。近年は冶金反応の熱力学関数を確立するほか、溶融メタルの諸性質の研究が拡大されている。

1937 年から 1962 年までモスクワ鋼研究所の鋼・合金鉄電気冶金講座を指導し、1939 年からはソ連科学アカデミー付属 A. A. バイコフ記念冶金研究員となつた。

現在では、A. A. バイコフ記念冶金研究所長、全ソ科学技術協会協議会議長、全ソ連邦労働組合中央会議員、ソ連閣僚会議科学技術国家委員会委員の要職にあつた。1966 年にソ連科学アカデミー会員に選ばれ、その活躍は高く評価され、レーニン勲章のほか、多数の荣誉あるメダルが与えられている。

一方海外においても、ベルリンのドイツ科学アカデミー会員、ハンガリー科学アカデミー名誉会員、ポーランド科学アカデミーに選出され、1967 年には本会名誉会員に選ばれた。氏と本会との関係は、学問を通じて非常に深く、1967 年 5 月第 1 回「日ソ製鋼物理化学シンポジウム」がモスクワで開催され、サマーリン氏を中心とするグループと、的場本会会長を中心に 7 人の団員による本会の使節団との学術交流が行なわれたのを始め、第 2 回シンポジウムが昨年 5 月東京において開催され、氏を中心とする 9 名の使節団を迎えた。引続き 1971 年開催を約し、わが国との学術交流をますます深めようという矢先のことであつた。